

平成28年新春産学官交流会



産学官交流会 会場



平会長 挨拶

平成28年1月21日にホテルセントヒル長崎で平成28年新春講演会・産学官交流会を開催しました。

会長挨拶

明けましておめでとうございます。本日は講演会から引続きたくさんの方々にご参加頂きありがとうございます。

昨年は景気も順調に回復基調で、我々情報産業に関わる業界でも人が足りないという状況であり、忙しい年だったと思います。

年があけて近隣諸国や新興国では不安定な経済情勢であるとの話もありますが、マイナンバー制度もスタートし、当業界にとって新たなニーズも見込まれ、今の状況が続けばいいと考えています。そのような中、我々の課題であるIT人材の確保・育成につきましては、今後ますます大きな課題となると考えています。

先日、福岡での情報産業団体(JISA)の西日本地区会議で経済産業省・情報振興局の方から、今後、政府の取り組みについて3つのキーワード

①IoT、②セキュリティ、③人材育成

のご紹介がありました。

また、長崎県におかれましては、様々な産業について平成28年からの5か年計画を纏められており、中でもIT活用や人材育成は重点課題として織り込まれているようです。我々も行政の方針・計画に沿う形で対応していきたいと思っております。

さて、全国各県にはそれぞれ地域情報産業の組織があり、その上部団体として全国地域情報産業団体連合会(ANIA)があり、当協会も加盟しております。毎年、ANIA全国大会を各地で開催し、今年は秋田開催となっております。



松尾部長



尾上部長

長崎県産業労働部 松尾部長、長崎市商工部 尾上部長にご挨拶を頂きました。

次の開催地は長崎の要望が強く、私共としても長崎開催について昨年より役員会で検討した結果、長崎は世界遺産登録もあり、注目されているこの機会に開催することとしました。この開催を通じてNISAの活動を地元の方々にとって頂く良い機会だとも考えています。

NISA会員企業が一致団結する機会にもなりますので、来年秋の開催に向けて準備を進めて参ります。従来、大会には協会会員のみならず開催地の知事、市長様にもご出席を頂いています。本日お越し頂いている来賓の皆様におかれましては、ご協力を頂けますようお願いいたします。

本日はこれからご挨拶頂きます長崎県産業労働部 部長 松尾様、長崎市商工部 部長 尾上様、他多くのご来賓の皆様に参加して頂きまして、誠にありがとうございます。また、講演をして頂きました日本ユニシスの松村様には、幅広く我々の業界に大変興味ある話を説明して頂きました。ありがとうございました。

最後になりますが、本日ご来場頂きました皆様のご健康とご多幸を祈念致しまして、私のご挨拶とさせていただきます。



岩永事務局顧問 挨拶



懇親会では、前事務局長の岩永氏の永年の功勞に対し感謝状が贈られました。

- ・ H5年6月～H7年5月 監事
- ・ H7年6月～H13年6月 理事
- ・ H13年7月～H24年6月 事務局長

「我が社の一押し」



㈲ランカードコム 峰松氏



㈱日本ビジネスソフト 小田氏

「講演会」



日本ユニシス㈱ 松村氏



■(有)ランカードコム

テーマ:「クラウドCTIとその活用について」

電話をコンピュータに接続する事例として、①音声自動応答による振分け、②着信した時間帯による振分け、③発信者電話番号による履歴の活用等があります。「クラウド電話」以前では、電話をコンピュータに接続することは難しく課題も多く、①特殊機器が必要、②回線工事が必要、③専門的操作が必要である。更に、高価、設置場所も広く必要だった。これが海外製のOpenVBXの仕組みであれば簡単に実現できます。Openという名のとおりオープンソースでありバーチャルなPBXを実現するためのツールとして活用できます。自社で行ったことは、①日本語化、②電話機能のローカライズ（11桁化、電話番号表示の簡略化等）、③独自プラグイン開発、④バグ対応、サポート提供です。特徴は、①電話機が無くてもパソコンのWebブラウザから操作ができる、②電話番号を取得できる、③音声自動応答、④プッシュ音でフロー分岐、⑤通話録音、⑥複数同時呼び出し、⑦ショートメッセージ送受信、⑧内線転送、⑨同時着信等の機能であります。試用申込を受付中です。

■(株)日本ビジネスソフト

テーマ:「透析施設向けタブレット型システム『i-Shunt(アイシャント)』」

シャントとは医療の世界では、動脈と静脈をつなぎ合わせたものを言います。このシャントの管理が非常に重要であり、医師や看護師等医療施設側で使うi-Shuntでは次のようなことができる。①タブレット入力による情報のデジタル化とその管理、②タブレットによる撮影画像の描画です。これに対し患者自身が使うmy-Shuntでは、①シャント音の比較（前回と今回）、②シャント情報の閲覧・保存・履歴管理、③i-Shuntとの連携、④シャント手術部分との接触によるシャント音の取得、⑤シャントスリル情報の取得が出来る。

端末としては、今後使用が増加すると予想されるタブレットを採用することで、触る、書込む等の動作をスムーズに行うことができる。また、データのバックアップもタブレットが持っているクラウド機能を利用して簡単に行うことができる。透析中にも患者情報を書込むことができ、透析後の支援にも対応している。本システムは、国のものづくり助成金に採択され、様々な医療機関にご協力頂いたり、公益社団法人日本臨床工学技士会主催の臨床工学会でも発表させて頂いています。

今後も弊社は、企業の課題解決やITによる効率化を追求し、みなさまのビジネスの成功の一助となれるよう邁進してまいります。

■日本ユニシス(株)

演題:「IoTの現状と今後の活用に向けた期待・効果」

IoTの現状と今後の活用についてデモを交えてお話し頂きました。

1. IoT概要

・IoTって何か？

英語で”Internet of Things”を日本語に直すと“モノのインターネット”である。

これを、モノがインターネットに接続することで新たな価値を生む、又は新たなサービスを提供できるととらえている。

これまでは、パソコン・プリンター・スマートフォン等がネットに接続されて使われていたが、最近では建設機械・生産設備機械・エアコン等がネットワークに接続されてきている。更に、橋や建物等の構造物、人の生体データもネットワークに接続されてきている。この後、自身のマンションの庭のリアルタイム映像をスマートフォンで見せながら、簡単な設定でこれくらいのことは出来るようになってきていることの説明があった。

更に、スマートフォンのカメラでカメレオンコードという色のパターンを認識させるデモを行い、特別な機器を用意することなく、ある程度の明るさがあれば離れた所からでもモノを認識できることが分った。このカメレオンコードについては、物流会社で人の動態管理も始まっている。使い方は、エレベーターの天井等にカメラをつけ、帽子やヘルメットに貼ったカメレオンコードを撮影するとい安価でシンプルな使い方で、従来のICタグのように高価な機器は必要ではない。このようにIoTの普及が進んでいる背景には、デバイスの小型化、低価格化、高速通信網、ネットワークの広域化、クラウド技術、ビッグデータ技術が大きく関わっている。IoTの標準化動向について、**特製造業**、エネルギー、ヘルスケア、スマートオフィス、スマートホーム等の分野で標準化が進んでいる。特に製造業の標準化であるIndustrie4.0はドイツを中心に大々的に行われている。その背景にはドイツの製造業の70%は中小企業であり、この中小企業の輸出競争力を高めることを目的にしていることが挙げられる。コンセプトは機械をネットワークに結び、データを収集・解析することで最適化/効率化を行うことであり、人の経験に頼った運営から機械の判断で効率的に行うことが可能になるということであった。モノを作るという動作にしてもサイバー空間上で設計データや制御データを使い、3Dプリンターで製品を作り上げるなど無駄を省き、時間とコストを抑えることもできるようになってきましたし、ネットワークから機械上のソフトウェアを入れ替えることで新たな機能を付加することもできるようになっている。

平成28年度研修スケジュール

2. IoT適用パターンと適用例

①モノのモニタリング

- ・ 河川の状態を水位計・センサ・カメラで監視
- ・ 橋梁の状態を加速度計・変位計で監視

②モノの制御

- ・ BEMS(ビル電力管理システム)では電気を使っている所にセンサを入れてモニタリングして電力の可視化を行っている。ここで使い過ぎている機器の電力を調整してピーク時の電力使用量を抑えることもできる。
- ・ カギの状態を確認・アラームを発する

③モノのデータを学習・分析

- ・ 自動車の自動運転
- ・ 利用頻度によりエレベーターの最適な保守時期を決定

3. 事例(日本ユニシスの取り組み)

- ・ ドライブレコーダーをネットワーク接続すると共に、加速度・ジャイロセンサを利用しドライバーに無理のない運転情報を伝えることで事故を防止する取り組み。
- ・ 踏切監視システム
- ・ 公共施設などに設置された充電装置をネットワークに接続し利便性を高めた

4. IoTビジネスプラットフォームについて

①デバイス層、②ネットワーク層、③プラットフォーム層に分けられる。センサーから得られた情報が有線・無線LAN等を通じてクラウドサーバーに蓄えられるような流れになる。クラウドサーバーでは大量に上がってくるデータを確実に記録することが求められる。また、不正なアクセスを防止するためのデバイス認証やデータセキュリティ・ネットワークセキュリティが重要になる。ただし、セキュリティばかり気にしているとそれに大きな負荷がかかりデータ処理に支障をきたす場合もあるのでバランスをとることが求められる。この後、鳥を感知して撃退するシステムを例に、センシングから処理の概念について説明された。その他の事例として様々な事例の説明があった。

- ・ 斜面崩壊モデル
- ・ 車両管理モデル
- ・ 機械・設備故障予知モデル
- ・ 画像解析モデル
- ・ 自動販売機故障予測モデル

IoT適用におけるポイントとして

- ①IoTの実装レイヤと実現できること
- ②最小構成でスタートしてシステムを拡張しながら本格的に展開すること
- ③IoTシステム導入のまとめ
 - ・ モノのモニタリングや制御で効果が上がるようにする
 - ・ 機械学習導入も最初から視野に入れる
 - ・ センサーデバイスの選定と開発が重要

最後に実証フィールドで集めたデータをネットワークを介してクラウドに集め可視化、解析により目的に合った運用を行うIoTビジネスプラットフォームのイメージが示された。



・ ネットワークセキュリティの基礎	5/18~20
・ 統計学を用いたデータ分析 (SE業務におけるデータ統計解析)	6/8~10
・ プロジェクトマネジメントの技法	6/15~17
・ データベース設計ワークショップ (概念設計、論理設計、物理設計)	6/29~7/1
・ ネットワークの基礎技術と運用管理(New)	7/6~8
・ パフォーマンスを上げるSQLチューニング	7/13~15
・ 業務分析設計概説 (システム設計における要件定義のまとめ方)	7/20~22
・ IT技術者のための「論理的」に「伝える」 意思疎通の技法(New)	7/27~29
・ 信頼されるSEに求められる問題解決スキル	8/3~5
・ リーダーシップ力養成研修 (部下のやる気と協力を引き出しWin-Winの関係を築く)	8/17~19
・ IT技術者のための「誤解なく伝わる」 文章化の技法	8/23~24
・ HTML5/CSS3マルチデバイス対応 (レスポンシブWebデザイン制作)	8/31~9/2
・ IT技術者必須のサーバー技術 3日で学ぶLinuxのしくみ(初級)	9/7~9
・ 心理学に基づいたプロジェクトメンバーの 管理育成法	9/14~16
・ IT技術者のための社外・社内交渉を Win-Winにするためのネゴシエーション	9/28~30
・ システム企画・運用管理者のための プロジェクト改善の実践(受け身から攻めの運用管理へ)(New)	10/5~7
・ オブジェクト指向の本質に基づいた アプリケーション設計(品質、コスト、改修を意識した設計)(New)	10/12~14
・ ネットワークトラブルの原因分析技術 (パケットキャプチャリングとトラフィック解析)	10/19~21
・ 開発者のための必須のセキュリティ技術	10/26~28
・ サイバー攻撃におけるインシデント対応 (疑似環境を用いた解析)	11/9~11
・ 開発者のための必須のクラウド技術(New)	11/16~18
・ Windows Server2012システム管理 (Active Directoryの管理を含む)	11/30~12/2
・ IT技術者必須のサーバ技術 3日で学ぶ Linuxのしくみ(中級)(New)	12/7~9
・ プログラム開発におけるレビュー・テスト 技術の定石	1/18~20
・ Web標準技術を用いたアプリケーション開発 (WebSocket、RESTによるサーバ連携)(New)	2/1~3
・ IT技術者に必要な論理思考力強化の ためのロジカルライティング&ロジカルシンキング習得(New)	2/8~10

■JETRO Singapore Representative Office



本田智津絵氏 (Analyst) **小島英太郎氏** (Deputy Managing Director)

日本貿易振興機構（ジェトロ）を訪問しシンガポールの情勢について話を伺った。

1. シンガポールのICT産業と政策

- ・情報通信産業の売上は伸びておりハードウェア70%、ソフトウェア12%
- ・人材は14万6千人程度で横ばい
※政府による業種毎や国籍に応じた人員数がコントロールされている。74%が国民残りが外国人
- ・ブロードバンド、ダウンロード速度ランキング首位（日本は4位）
- ・東南アジアのデータセンター容量60%を占める
- ・世界初データセンター専門団地を予定
※首相や大臣が自らプログラミングができる！

<iN2015Masterplan>

- ・超高速、信頼性の高い情報通信インフラの構築
- ・国際的に競争力のある情報通信産業の育成
- ・国際的に競争力のある情報通信の専門人材育成
- ・最先端の情報通信を用いて、経済や政府、社会の変革をサポート

2. スマートネーション構想で目指す世界

スマートネーションとは・・・

シームレスなテクノロジーによって、全ての人に刺激的な機会をもたらし、意味のある充実した生活ができる国。日々の生活において、センサーのネットワークやスマートデバイスによって快適でサステイナブルに暮らすことができる国。そして、テクノロジーによってコミュニティーの中の人々が互いに簡単に、密接に通じ合うことができる国。
2014年11月に取り組みを開始。

- ①高齢者ケア、交通、データ市場を優先的に開発
 - ・センサーネットワーク
 - ・データアナリティクス
 - ・個人の実生活に役立つアプリケーション
 - 第1期はセンサーとコネクティビティに注力
- ②2025年には自立可能な高齢化社会を目指す
 - ・ビッグデータ、シミュレーションなどを通じた効率的な住宅、駐車場などの設計
 - ・温度、湿度などのリアルタイム情報をセンサーを通じて収集
 - ・センサーを組み込んだスマート照明、廃棄物真空搬送システムの設置
 - ・高齢者見守りシステム、ホーム・エネルギー・マネジメントシステム



■株式会社ブイキューブ



間下直晃社長

シンガポールに拠点を置いて活躍されているIT起業家にお話を伺った。web会議では日本国内No.1の株式会社ブイキューブ 代表取締役 間下直晃 社長を訪問した。日本で成功し、アジア拠点を上げた場合、国内が忙しい時に往々にして日本人社員はアジアからの切実な相談に迅速な対応ができないことが良くある。ブイキューブでは社長自らが社員に向けた意志・メッセージをシンガポールから発信して、アジア向けのサービスを無視できなくする工夫がされている。更に、社長が日本不在でも自社のweb会議システムを使えば海外でも移動中の車の中でも、会議に参加し意思決定を行うことができる。自らの製品を一番利用しているのは間下社長なのかもしれません。その他これからの経営戦略をお聞きしたあとNISAメンバーからの積極的な質疑に応じて頂き、とても刺激的な機会でした。
なお、協会の現行のweb会議システムをブイキューブ製に変更した。

「第12回IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」2016募集」

テーマ：「ことばの力（ちから）」
募集期間：2016年4月1日（金）～9月7日（水）
<http://www.ipa.go.jp/security/event/hyogo/index.html>
情報モラル・セキュリティの大切さが伝わる作品を「標語」「ポスター」「4コマ漫画」で表現してください。
NISAは本コンクールを応援しています。

地域賞 一般社団法人長崎県情報産業協会 会長賞

情報
を
正しく使
い
いい世
界

松尾 笑香さん
長崎県立清峰高等学校 1年

山中 真梨奈さん
長崎市立三重中学校 1年

多岐スズメ NO!

有吉 碧南さん
五島市立福江中学校 1年

◆NISA会長賞入選者

【標語部門】	松尾 笑香さん	長崎県立清峰高等学校 1年
【ポスター部門】	山中 真梨奈さん	長崎市立三重中学校 1年
【4コママンガ部門】	有吉 碧南さん	五島市立福江中学校 1年

2015年のNISA会長賞 表彰作品

発行元：一般社団法人 長崎県情報産業協会
〒850-0032 長崎市興善町4-6-701
電話：095-824-0332
発行責任者：会長 平 敏孝
発行日：平成28年4月28日 第1版